夕刊
磐城新聞
二月十二日發行
定價 一ヶ月金六拾五錢
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

十一

計算例

一、法五（上位）と實五（下位）と見合せ5×5=25と實の五（下位）を二とし、次の桁に五を置く

此の時の盤面五二五

二、次に法五（下位）と實五（一回目に掛け合はした五）を見合せ5×5=25と第一回目九々の二五と置いた五に二を加へ次の桁に五を置く

此の時盤面五二七五

三、次に法五（上位）と實五（末に掛け終らん五）を見合せ5×5=25と掛けられた五のありし桁を二に直し次の桁に五を加へる

此の時の盤面二七七五

四、次に法五（下位）と實五（只今二と直した五は未だ法數に一回のみ掛けたゞけ）を見合せ5×5=25と十、百の桁に加へる

此此の時の盤面三〇二五

即ち答である

掛算は實の一位の一位右法の頭の位なり

即ち實の一位の次の桁が何時でも法の首位の位となるのである

法が二桁（十位）の場合は實の次の桁が乘積であり法三桁（百位）の場合は實の次の桁が乘積百となる

練習問題

（一）

25×25=625
37×33=1221
46×31=1564
49×68=3332
85×45=3825
26×24=624

（二）

56×54=3024
65×45=2925
96×36=3456
35×73=2555
167×58=9686
471×36=16956
564×13=7332
325×93=30225
639×83=53037
339×59=20001
706×63=44478
715×78=55770
670×64=42880
3105×23=71415

補數應用簡便法

乘率が（法）

200 300 400 500 600
2000 3000 4000

等に稍不足せる數であれば簡單な手數で商を求めることが出來る

例へば二九五と掛ける時は300−295=5 であるから各桁を三〇〇倍して五倍を引けばよいのである

例一

222×296=65712

計算法

一、法三〇〇と（三）實二を見合せ3×2=6 と實の末位の次の桁に六を置き（六〇〇）二桁下位より多い所の4×2=8を引く

此の時の盤面二二〇五九二

二、次の桁法三と實二を見合せ3×2=6 と實の珠二を拂つて次の桁に六を加へ、二桁下位より補數四を實二を見合せ 2×4=8 と置く

三、次の桁法三と實二と見合せ3×2=6 と實の二珠を拂へ次の桁へ六を加へ二桁下位より補數四と實二と見合せ4×2=8 と引く

此の時の盤面六五七一二

即ち答である

練習問題

73×4992=73×(5000−8)=394416
8567×898=8567×(900−2)=7693166
85×4985×(500−15)=423725

寒梅　悼歌（一）

島田忠夫

赤羽媼を悼む木兎莊主晩霞國手の短文を磐新紙上に讀みぬ

○煤が降る町のなかなる君が莊の床に或は梅か活くらむ

○白うめを床に活けつつ悲しみて居む君がすがた思ほゆるなり

○妻のなきこころ寂しと松堂の翁は君が莊に來ますらむ

○西方の淨土にたちし媼より殘る翁をさびしと云はむ

○つつましき白め梅しかすがに北斗翁に酒すすめ給へ

○酒のみて醉ふとあらねど妻のなきふかき悲しみ和ぐとか云はも

○天さかる磐城の國に亡き人をかなしむ莊ぞ思ほゆるかも

磐泉吟社第二回作品

新年偶感　佐波古函峯

貞山忙七踊朝鮮　愧我同康保瓦全
甲戌迎來新氣魄　研鑽爲世鐵心堅

予迎新春、方廿七歲、起承故及

賀湯本街衙新築落成

多年考案築街衙　輪奐堅牢亦足誇
豈啻美觀如此止　經綸殊願益邦家

潮聲（十二月選卷）

赤羽松堂選

○雜詠

舞猿の串本節を踊りけり　眞砂常
初日記障子にうつる氷柱影　枯萍
書初や一心こむる師の遺墨　華[illegible]
勇ましき木遣音頭や出初式　鶴步
唐獅子の顏の寒さや初詣　竹羊
山を背ふ村靜かなり初日影　長貴
仰ぎ見る雪の閼伽井の初日かな　桃村
追羽子の露路をせばめてつきゐたり　香村子
初刷やいちはやく見るラヂオ版　華岳
羽子をつく洋裝の子の足かろし　欽一

加[illegible]章

けぶりたつはろかの島や初凪ける　松堂
市に賣る芋の穴堀る鍬始

○寒[illegible]鮒　高久晩霞選

佳調十句

寒燈のもとに鮒燒く厨かな　松堂
寒鮒の腑なめづる父にして　同
寒の鮒榾火掻きよせ燒きにけり　眞砂常
淀む水寒鮒つらる日向かな　石城
寒鮒の味噌燒旨し酒を呼ぶ　秀勝
日當りに寒鮒釣の動かざる　武門
寒鮒の瘦せしが釣れ近く來りたり　竹羊
淺川にさかしき寒の小鮒かな　文狂
寒鮒や焚火して呼ぶ釣同士　華堂
木の葉ごとすくひ上げたり寒の鮒　欽一

三光送列

寒鮒や陽射せる池の一とところ　長貴
釣れてゐる竿ゆるみなし寒の鮒　竹羊
寒鮒や沼うすごろ雪の晴れ　華岳

追章

着ぶくれて寒鮒釣の一人かな　晚霞
苞解けばみな生きてゐる寒の鮒

消息

□島田忠夫近作發表目錄（一月號）○短歌春秋『愚庵雜考』論文、○同『鮎川の宿』隨筆、○日本短歌『業餘吟』短歌、○短歌と方法『鴨』短歌、○同『月評』評論（三月號）○短歌と方法『飛行場吟』短歌、○同『月評』評論 ○同『耳』隨筆、○短歌春秋『飛行機の歌』短歌 ○同『續愚庵考』論文、○日本短歌『身邊吟』短歌

『近代婦人短歌會』近代女性の短歌藝術研究機關として今般東京市京橋區槇町二の五不二ビル二階婦人と藝術社内に新設された『近代婦人短歌會』は本縣出身の閨秀も多數參　、加ふるに中央一流大家の指導あり各方面から期待されてゐるが目下女流會員及原稿を募集中で平町在住者を始め縣下在任者には特に便宜を計る

社會の今日

2月13日

△續日本紀を上る（延暦一三）△米艦江戸灣の測量を始む（安政元）△總選擧立候補締切總數七百十四名（昭和七）△滿洲國熱河討伐を宣言す（昭和八）

○

いたましく若き法嗣や
梅の寺

句　一歩

小草履の鈴を鳴らしつゝをさなごが、草踏む春となりにけるかも

本居亮一

講談

浪人長屋

（10）

日岐武志作　月草道子畫

髑髏

穴ッ底は枯土らしく、そして濕り氣を持つてをり、ぶくぶくしてゐたために身には擦り傷だに負うてゐなかつた

ぷーんと、濕つた空氣と土の臭ひだつた

古井戸にしては淺いと思つた、上を仰いでみると、踏み込んだ入口のところだけが圓く、くぎつてぼんやり明るいだけだ

穴の中は眞ッ暗闇で、一寸先も分らない

轉落する時の感じや、あの入口のぼんやりした光り工合やで、深さは三丈とはあるまいと思つた

それにしても、森の中の古びた堂にろうそくが一本ともつてゐたたけで、人氣がないばかしかこんな落し穴があることが、不思議に思はれた

――やつぱり計られたのだ

自ら彼等の罠に陷入つてゐたのだ。そうときまれば救ひ手が來る筈はなし、自ら逃げられる方法を考へ外絕望だつた

――小花はどうしたらう

それも、氣懸かりでならぬ。が今はどうにかしてこゝを出ることを考へねばならない

源三郎は立ち上りかけたが、ふと手に觸れたものがあるので、何氣なく手探りしてみて思はずぎよッとした

枯れ枝か木片だらうと思つたものが、まさに人間の肋骨や、四肢の骨だつた。

石だと思つたものが、髑髏だつた。かつて、こゝへ陷込んで遂に逃れ得なかつた者の殘骸であらう

――自分も、かうなるのではないか

源三郎は立上つたが、ふら／＼とよろめいた

無傷と思つたが落ちるとき、やつぱり腰のあたりをしたたか打つたらしかつた

源三郎は腰の痛さを堪へながら穴の周圍を手探りで歩き出した

古井戸ではなかつた。井戸なら石垣でもつと狹い筈だが手にふれたのは濕つた土壁で、かなりの廣さを持つてゐるらしかつた

穴倉のやうなものだが、上の方へゆくに從つて周圍が狹まつてゐるらしかつた

とすれば、土壁に爪を立て足懸りを作つてよぢのぼるといふことは到底不可能と考へなければならぬ

穴は圓形だつた。手探りではあるが、脱け穴は何處にもないらしかつた

誰か堂に訪いてくるものを待つ外、もはやこゝを出る手段はないと思はれた

森の中の古びた堂へ誰が來よう。來たとしても、いつ來るか分らない

その間に餓死が來る

小花を拐ひ、又自分をこゝへ陷いれたものが、かの玄内の手下とすれば、板橋で玄内を懲しめる時も少し手加減しておけばよかつたと源三郎は思つた

玄内が倒れる時、左腕が付根からぶらんと垂れてゐた樣が思ひ出された

――左腕を失つて、恨んでゐるかも知れぬ

ふと、何ものかに爪づいて、源三郎はばつたりとそこへ倒れたが、起き上りかけた時

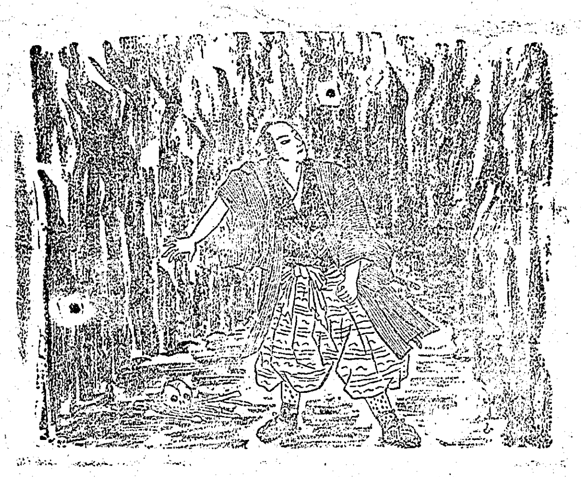
『あ、あ、あーッ』

と、突然、源三郎のすぐ傍に、苦しげなうめき聲が起つた

誰もゐないと思つてゐた穴の中に、誰かが倒れてゐるらしかつた

さらさらと、衣ずれの音がしてそこにうごめく氣配が感じられた

闇の中で源三郎、ぢッと眼を据ゑた



廣告

●旧二日市 ― 大特價・景品サービス！
中野洋品店の初賣

吉例景品付大賣出し
平素の御愛顧に酬ゆる年一回の御禮大提供！
御買初は是非本年もなかやで
舊正月二日、三日の　二日間
ふかや洋服店

新築感謝
萬年筆大賣出し
舊二日より景品呈上
記念金文字御名入無料
お氣に召す迄金ペン交換
五ヶ年絕對責任付
定價一二圓以上
品種豐富……
角忠
佐々木商店
平紺屋町角公園前
電話二三三番

破魔弓と羽子板を
陳列致しました。
奉祝 皇太子殿下御誕生 用提灯 各種
スガノヤ提灯店
平町四丁目・電話九五番

吉例初賣
二月十五日
舊正月二日、三日（午前二時開店）
年中の御愛顧に酬ゆる大奉仕として。もれなく。
……大景品呈上……
競つて御來店をお待ちして居ります。
平町五丁目（釜屋前）
時計、眼鏡
貴金屬類
蓄音機
金光堂
電一九五
（ビクター・コロンビヤ…特約店）

大景品付
時計
眼鏡 と大賣出し
移轉改舖記念の爲時價の二割安にて提供
舊正月二日、三日…二日間
二丁目
根本時計店
電話六〇七番

二日市の景品は左の通り御實行せられん事を希望します
一、現金にて御買上の方に景品を呈します
一、現金にて商品券御買上の方にも同樣景品を呈します
但し商品券にて品物御買上の場合は景品を差上げません
平商工會
平町商店御中
平町御客樣御中

月曜論壇

奉安殿の位置

最近熱心なる本紙の愛讀者から目下建設中にして近く竣功の運びとなつてゐる第一小學校の御眞影奉安庫が神位として一般の常識となつてゐる南面若は東面せずして西面となつて居る事實を指摘し、その當否の檢覈方を要求して來た、云ふ迄もなく『天子は南面し臣下は北面す』の觀念により所謂北面の武士なる言葉があり紫宸殿の御座所をはじめ總て南面せる所以で衆庶の祭祀禮拜亦南面若は東面（天下は東面すの語あり）に神位を設くる事は少くとも社會の通念となつてゐるので之の觀念に悖つた前記の實際問題は造次顚沛全校兒童の崇敬を鍾め以て金甌無缺の國体觀念を强調する意味に於て當然起らねばならぬ疑問として吾人はその尖銳なる關心を喚ぶものであるが明治三十一年八月九日縣訓令三十五號の『御影及勅語謄本奉護方法』第三條に據ると——御影は南面にすべし、若し南面に爲し難きときは東面若は西面とし北面と爲すことを避くべし。云々とあつて校庭と建物の關係其他周圍の事情寔に已むを得ざる場合には最大限の規定たる西面にするも尚ほ法に牴觸せぬ處から町理事者に於ては愼重考慮の末現場に方位を定め而して其筋の認可を得たもので仔細に內容を詮索すれば毫末も當局の過誤失態と認むべきものは無いが、本紙の愛讀者が徒に當局の揚げ足とりを以て顧盼自ら雄とする態度に出でず徐に其の懷疑を叙べ進步の道程を辿つた事は、近來往々唯物史觀の舶載思想に心醉し眼中大和民族の傳統精神たる敬神崇祖の觀念に稀薄なる徒輩亦無きに非る現下の實情より觀て其間一種の心强さを感ぜざるを得ざるものがある、蝸牛角上の闘爭は斷乎として排斥すべし而も此種眞摯なる問題の檢討に就てはお互その全力を之に傾注し苟も大にしては國家を傷け小は町政を紊る無きの覺悟があつて欲しいと思ふ

建國記念の當日に 有難き御思召を拜す

縣下では至道會、自營會、訓盲院へ

畏くも御奬勵金を賜はる

建國記念の佳節をトし畏くも 皇室におかせられては司法保護事業御奬勵の思召から御內帑金を御下賜あらせられ本縣に於いては福島聯合保護至道會、並に平自營會に對しその傳達式を當日午後一時二十分から福島刑務支所に於て畑山知事、石井福島地方裁判所長、後藤檢事正を始め、平自營會よりも理事本庄吾助氏出福各官衙代表等四十餘名列席執行された、定刻開辭に次いで島田福島刑務所長から福島聯合保護至道會佐藤會長並に本庄平自營會理事に御下賜金一封を傳達され島田支所長の告辭、畑山知事石井裁判長、後藤檢事正の祝辭あり、二時四十分閉會した。平自營會長清田一郎氏は語る

司法保護事業は社會に欠くべからざるものです。今回畏きあたりより有難き御沙汰を拜し全く感慨無量です、今後とも益々斯業の爲め微力ながら各關係機關と提携、力を盡して 聖旨に報ひ奉らうと思ひます

又御內帑金を拜受歸平した本庄理事は御沙汰書を拜讀しながら語る

昨年の刑餘保護者は九十四名、內女二名で明治四十三年設立以來二千餘名の刑餘者に司法保護を與へた譯です、此の度の有難き御沙汰は感激に堪へません

又財團法人磐城訓盲院では同時に盲啞教育御奬勵の御下賜金を仰いだが同院は明治三十九年十一月日露戰捷記念として創立し、大正十一年五月財團法人の認可を受け翌年一月 攝政宮殿下御成婚記念として校地買收校舍寄宿舍を新築、同十五年六月今の校舍に移轉したもので創立以來九十二名の卒業生を出し、現在三十二名の生徒を收容し財團法人の認可を受けて以來每年御下賜金の光榮に浴してゐる理事梅崎安由氏は左の如く語つてゐた

年々御下賜金を賜はり誠に感激に堪へない、此の上は益々努力して皇恩の萬分の一に報ゆる覺悟であります。云々

鮫川堰愈々着工決定

昨日の臨時總會で纏まる

全線の測量が完成せぬ場合は工事中止の外あるまいとまで憂慮された鮫川水利組合では昨十一日午前十時から團体事務所樓上に臨時委員會を開き着工促進について種々協議した結果愈々着工計劃を進むる事になつた

耕地擴張事業豫算計上陳情

平町關係者から兩院へ

耕地擴張改良事業の豫算計上に關し平町關係者は縣耕地會と合流して左記願書を貴族院には金成、衆議院には鈴木兩議員に依賴提出する事になつたと

請願の要旨

政府は用排水幹線改良、開墾、時局匡救耕地關係農業土木事業の助成に充分なる追加豫算案を第六十五帝國議會に提出せられたきこと

理由

刻下の非常時に方り農村對策の根幹たる耕地擴張改良事業の實行は最も適切喫潔の事たるに拘らず昭和九年度豫算案に於て之に關する經費の計上殆と無之は銃後の施設を省みざるものにして極度に窮迫せる地方の實情に即せざるものなり依て之が計上を望む

諸敬氏當選

信用組合新主事

平庶民金庫では一昨十日午後二時から臨時役員會を開き星野濟吉氏死亡による補欠幹事を協議したが任期も餘す處少いので保留する事になり主事一名の增員については滿場一致諸橋敬一郎氏に決定同四時閉會した

海兵志願者少數

非常時を裏ぎる現象に

當局が奬勵に腐心

本郡に於ける本年度海軍志願者採用試驗は來る廿七日より三日間平第三小學校で執行されるが志願者割當二百二十名に對し非常に少いので町當局では過般來各區長と連絡をとり優秀者の勸誘に努めて來たが昨九日迄の申込者は僅か十六名であると

餅米を寄附

寄特な某米屋さん

昨十一日町役場に舊歲末貧困者の爲にと平町某米屋さんから餅米三斗寄附したので當局では直に配付する事になつた

郡第三方部青年團長會

郡下第三方部青年團長會は今十二日午前十時より平第一校で開催、會長曾我直治氏、副會長仲村辰四郎氏辭任に伴ふ役員選擧及び七年度決算、八、九年度豫算、總集會開催に就い協議した

『平音頭』の色紙短册揮毫

詩人內村氏來平

既報—情緒豊かな新作『平音頭』を作詩すべく縣出身の鈴木正夫氏らと共にいよ〳〵近日來平する事に決定した詩人內村俊一氏（婦人と藝術社長）は、特に平町在住の諸氏に限り『平音頭』を色紙短册に揮毫頒つ由で希望者は前以つて至急東京市京橋區槇町二—五不二ビル婦人と藝術社宛申込まれ度いと

男女中等學校の願書受付のお膳立出來る

受驗氣分逐日濃度を增す

春立ちて一週間、兒童の試驗準備に忙しい此頃、在平三中等校では願書受付のお膳立がすつかり出來上つた即ち磐中（人員約二百五十名）磐女（人員約二百名）では來月十五日願書受付締切、二十七、八日學科考查二十九日体格檢查、三十日入學許可發表、平商（人員約百十名）では來る十九日願書受付開始、來月二十四日締切、二十七、八考查、二十九日入學許可發表である

髙田氏寄附。。。。 平町鎌田町髙田濟二氏は亡父濟一郎氏の遺志により第三校に金二十圓を寄附したが學校では之により臺付の鏡を講堂に備へた

運轉手を途中に降し自動車で內妻伴れ出し未遂

超尖端的犯人平署に捕はる

東京市小石川區指ケ谷町東屋事島津貢（三二）が昨十一日午後四時頃下谷區稻荷町地內を卅一年型フォード車を運轉客拾ひ中一人の男に吉原から逃げ出した遊女を追ひ故郷內郷村まで行くのだとの事に十七圓の約束で植田、泉間に差し蒐つたが不案內の土地とて已むなく渡邊村駐在所で地理を問ひ合せ中件の男はエンジンのかゝつて居る車を操縱そのまゝ走り出したので島津は吃驚自轉車を飛ばして泉駐在所に馳つけたが判明せず泉驛より電話で平署に手配方を依賴したが同署では折よく綴、湯本、平の歲末非常警戒の折だつたので直に各所の鐵道踏切りを遮斷する一方全線に亘つて手配した處、同十一時頃內郷村磐炭淺野記念館裏を徘徊するオーバー、手袋、中折帽子を所持する擧動不審の男あるを本田、林兩刑事が逮捕取調べた處、同人は埼玉縣北埼玉郡豊野村生れ當時東京市足立區吾嬬町元運轉手大谷勝次郎（二二）で乘り逃げた迄はよかつたが磐崎村白鳥地內で泥濘に乘り込み、動きが取れなくなつたので已むなく島津の所持品を搔つ拂ひ徒歩で湯本町矢內自動車部に來て貸切りを申込んだ處擧動が變なのではねつけられ內郷村まで來た處を捕へられたものであると

お千代戀しが運の盡

不逞の大谷が捕はる迄

犯人は直に平署川島司法主任係取調べを進めて居るが同人は昨年十一月迄目下內郷村高坂居住遠藤留吉娘千代（二二）と內緣關係を結び同棲して居たものであり金は無いが自動車運轉の心得ある處から前記方法で內郷村に來り千代と高跳びせんとしたものらしいと

櫻ケ丘を巣立つスポーツ女性

新人獲得に焦る磐女

磐女校運動部此期の卒業生左の如く縣下大會に三點を（五校で）獲得し神宮競選々手權を得た庭球部を始め多數有力なる選手諸嬢が巣立つて行くので新人獲得と後進養成に努力してゐる

（庭球）藤田シメヨ、戸來綾子（陸上）加藤菊枝（バ球）吉田泰子、白土喜惠（バレー）草野伸子、柴田雪枝、飯田淑子、磯上チヤウ、大河原トシ、安孫子ノブ、西山好子

自動車墜落

其筋で取調べ開始

相馬郡原町字南新町自動車運轉手門馬綱紀（二七）が去る十日午前十時頃助手沼崎彌（三二）を同乘原町より安達郡へ白米を積載疾走中双葉郡刈野村地內で一丈餘の崖下に墜落沼崎を死亡せしめたるの事件あり其筋で取調べを開始した

オートバイ大冒險公演

平町伊東興行事務所小關小四郎氏は今回東洋一オートバイサイカホール一行を招き今十二日午前十時午後二時の二回に亘り白銀町平劇場跡で『オートバイ絶壁乘り』の冒險を公開盛況であつた

醉餘のドライヴ くるわの達引

素見し客二名散々毆らる

高久村下高久農內田行雄（三五）假名—は一昨十日午後九時頃同村農業指導員佐藤三郎（三四）假名—と共に平町田町石川亭で飲み合ひその勢ひでタクシーを遊廓に飛ばし住吉樓事、檜山謙方の格子先を素見し歸らうとした處傍に居合せた同町武藤某に『上つて行け』と云はれた事から喧嘩となり野次馬數名の爲毆る蹴るの暴行に遇ひ其場にへタ倒つて了つたので伴れの佐藤からの訴へ出でにより平署圓道部長が馳せつけ取調べたが御難の兩人は同樓番頭を相手取り告訴するらしいと

高橋町議宅を襲ひ白面の青年賊捕はる

間髮をいれぬ警官の活動

昨曉三時十分頃平町白銀町町會議員高橋龜松氏方の塀を乘り越へ便所の窓より屋內に忍び込まんとする怪漢あるを主人龜松氏が聞きつけ雨戸をあけて誰何した處賊は素ばしこく物蔭に隱れたので所持のピストルを空中に發射した爲驚いて逃げ出したので更に追跡中同家五女勝子さんが氣轉を利かし平署へ電話を掛け宿直の警官が間髮を入れず驅けつけ驛附近で難無く取押へた右は小野新町生れ上町直英（二六）假名で目下取調中

押送途中逃走を企つ

銅線泥大家寅次郎

平町大町二五生れ大家かの長男寅次郎（三〇）は昨年十一月以降二月迄平鐵道保線區より銅線四十貫（八十圓）を窃取した外飯野村谷川瀨地內の東部電力平變電所より同じく銅線百貫（二百圓）を窃取したが既報の古物商伊藤勇治の逮捕されるを知るや逸早く逃走、伊藤を取調べた結果同人が主犯人である事が判明したので同署では各方面に手配搜査中の處去る八日滋賀縣長濱署に逮捕されたので安藤刑事部長が身柄を引取つて來たが途中二度迄も逃亡を企てたと、目下餘罪取調べ中

角忠商店奉仕

平町紺屋町角忠丸星佐々木商店では此程從來の向ひ側に店舖を新築移轉したのを機とし來十四日の舊正二日より新築感謝萬年筆大賣り出しを開始し巧妙無比のインキ止付自動吸入の奉仕特製品其他を豊富に準備し尚ほ記念金文字名入の需めに應ずると

。。。。成人講座 文部省主催成人講座は來る廿一日より四日間本郡に於ては植田小學校に開催するが科目左の如し

日本國民精神、日本史、道德、宗教、政治、法律經濟、生活、生業

東部電會社慈善燈配給

東部電力營業所では平町舊歲末貧困者三十名に十燭光一ヶ月の慈善燈を配布する事になつたと

綿引被告控訴。。。。 恐喝事件で去る九日平支部で中島裁判長より懲役一年を言渡された內郷村大字綴字秋山無職綿引矢馬之介（四八）は此程控訴を申立てた

「磐城ダルマ」を聞く

新舞子

上

子供達が唱つてゐる

幾つ投げてもコロ〳〵ころび、此方を向いてかと起きる、起上り小法師は面白い

面白いと思はれた、〇〇さんの表戸を明ける、大小とりどりの未だ出來上らぬ達摩に圍まれ、それに一つ一つ器用な手付きで鬚をつけながら〇〇さんは忙がしい中を親切に話して呉れる

○

今では廢たれましたが大火事まで、いや火事の少し前でせうな、磐城の達摩市と言や大變な物でした、福正月の十二日には商人は勿論誰でも彼でもお參りに行つたものです、二丁目に市神さまといふのがあつて、今の大一屋さんの氏神さまになつてゐますが、その頃は裏に通づる路でもつと廣く、七轉八起の緣起を祝ふ商人から養蠶家、磐城全國は尚ほさらの事隨分遠方からも來ました

○

お參りすれば歸りには屹度お宮と向きあつた私達の市に寄つて、買つてつたものです、あの露路が廣かつたのに反して大通りが左右各一間二間だけ狹かつたわけですが、非常ににぎやかなものでした、今は寂びれました、我々世話人仲間でお宮をお遷しする計劃もないでありませんが何せ多忙な職業、來年は〳〵で未だに大一屋さんに掛合ふ事もしてゐません、今でもお祭りの日には神官を招き、紫のお幕を張り色々なお供へをして大したものです

○

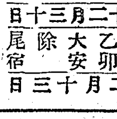
私達もこの日にはこうした職業である關係上、それこそ雨が降らうが槍が降らうが必ずお參りしてます、私達の外には近所の人達が少々お參りする位でせう、七轉八起の達摩樣、その市神さま、適當な所にお遷しして七轉八起と平町の商業をもつと〳〵盛んにしたいものですが。平の市は十二日ですが四倉では八日の大市に、小名濱では九日、湯本では十日の金比羅さまのお祭に市が出ます

○

今では磐城達摩も世間の開けたせいか、皆悧口になつてお祭にも出ないし達摩も買ひません、ほんの昔氣質の方が五錢といつても十錢置いて行く位。東京方面へは出ません、彼方は高崎の達摩といつて上州高崎の産物、黑瞳を入れてない、これは養蠶地で春のお蠶さまが當ると一方の眼に瞳を入れ、夏蠶が當ると他の一眼を入れる、秋も思ふ樣になると兩眼を補つて大きくするやうな風習があります

十三日

日出 六、三一　月出前 五、五四
日沒 五、二〇　月沒後 四、二三
滿潮 前六、〇〇 後四、四〇　干潮 前一一、一〇 後一一、三〇



舊十二月三十日
火曜　乙卯　大安　除　尾宿
新二月十三日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神數舘

▲一白の人 運氣次第に盛上るも商勢には乘ずべからず▲二黑の人 諸事進んで大功あるべし開店普請轉宅亦吉▲三碧の人 濃霧に蔽はれし飛行機の如く危險多からん▲四綠の人 せい急を專らとし人に交らざれば隔絕を生ず▲五黃の人 幸運は更に一層の努力に依りて吉となる日▲六白の人 半座を分けて人と事を共にすべく功績擧る▲七赤の人 內紛に心を痛むる事多し融和を謀るべき日▲八白の人 歲月人を待たずと一刻を爭ひ奮勵するが吉▲九紫の人 諸事沈滯を生じ易し希望計畫あるも進むな

紅茶代用品！
即席しるこ
何處の御家庭でも熱湯さいあれば即席に出來ます尙一分間炊は一層風味良くなります。在來の晒あんとは全々違ひ日向臭くありません。小豆の天賦の風味芳香と榮養分を完全保有されて有ます。
一袋正量三七五瓦入（約廿人分）金三十錢
贈答品函入 金一圓
製造發賣元 日進堂 平町田町 電話一八六
新草餅を始めました。

父博之遺骨歸鄕ノ際ハ御多忙中特ニ御迎被下御厚志忝ナク奉存候乍略儀以紙上御禮申上候

二月十一日

白井一郎